

石巻専修大学創立 30 周年記念事業
「私立大学研究ブランディング事業シンポジウム」

開 催 報 告



専修大学は2020年に創立140周年を迎えます
石巻専修大学は2019年に創立30周年を迎えます

シンポジウム開催報告

石巻専修大学創立 30 周年記念事業「私立大学研究ブランディング事業シンポジウム」

日 時：2018 年 11 月 8 日（木）13：30～16：40

場 所：石巻専修大学 4 号館 4101 教室

主 催：石巻専修大学

後 援：石巻市、東松島市、女川町、（公財）石巻地域高等教育事業団

参加者：220 名

プログラム

13：30 シンポジウム開会の挨拶（石巻専修大学 学長 尾池 守）

第 1 部 特別講演

13：35 「東北の魚で考える、ブランドとは何か」 上田勝彦氏

14：20 「落ちこぼれ水族館が世界一へ」 村上龍男氏

15：05 休憩

第 2 部 研究成果発表会

研究課題：震災復興から地域資源の新結合による産業創出へ

－草葉起源による内水面養殖業の創出－

15：15 「内水面養殖システムの構築」 第 1 研究グループ代表 高崎 みつる 教授

15：45 「流通・マーケティングの確立」 第 2 研究グループ代表 庄子 真岐 准教授

16：00 「研修システムの確立」 第 3 研究グループ代表 柳 明 教授

16：15 上田勝彦氏、村上龍男氏 コメント

16：30 質疑応答

16：35 閉会

第1部 特別講演

「東北の魚で考える、ブランドとは何か」

上田勝彦氏（ウエカツ水産代表取締役、東京海洋大学客員教授）

上田勝彦氏からは「東北の魚で考える、ブランドとは何か」と題して、ブランドのあり方について参加者とディスカッションを行いながら講演いただきました。ブランドを売り出していこうと考える際、「ブランド化」するのではなく「ブランドになっていく」ものであるという認識を持ってブランドイメージの情報発信・運用を行う必要があること、また地域の独自色のある新しいものを考えPRしていくことが重要であることを語っていただきました。



「落ちこぼれ水族館が世界一へ」

村上龍男氏（山形県鶴岡市加茂水族館元館長、現シニアアドバイザー）

村上龍男氏からは、「落ちこぼれ水族館が世界一へ」と題して、経営危機に陥っていた山形県鶴岡市加茂水族館を世界一のクラゲ水族館へと育て上げた軌跡を、波乱万丈な人生談とともに講演いただきました。偶然水槽の中にいたクラゲを展示したところ、来館者に好評であったことから、クラゲをメインにした今までにない独自の水族館としてPRし、世界一のクラゲ水族館としてブランドを確立できたことが語られました。



第2部 研究成果発表会

第2部は「震災復興から地域資源の新結合による産業創出へー草葉起源による内水面養殖業の創出ー」をテーマに研究を行ってきた石巻専修大学の3名の研究代表者より研究成果報告がなされました。

「内水面養殖システムの構築」

第1研究グループ 石巻専修大学 工学部教授 高崎みつる

内水面養殖システムの構築に取り組んできた高崎みつる教授からは、予備実験施設での養殖試験を通し水質管理・水質浄化システムの知見が得られたこと、また草葉起源の餌料生産に関する試験について課題は多く残るものの、実現に向けたデータ収集ができたことが報告されました。得られた知見をもとに、今後も3つの研究グループが連携し、石巻専修大学のブランドとして研究を継続していくことが述べられました。



「流通・マーケティングの確立」

第2グループ 経営学部准教授 庄子真岐

流通・マーケティングの確立をテーマに取り組んできた庄子真岐准教授からは、陸上養殖事業に最適なビジネスモデル確立に向けた調査結果が報告されました。陸上養殖事業者の事業パターンの調査や養殖魚介類における消費者意識調査などが報告され、現状の課題や高付加価値の商品を提供するための提言がなされました。



「研修システムの確立」

第3研究グループ 人間学部教授 柳明

研修システムの確立をテーマに取り組んできた柳明教授からは、内水面養殖の現状や、自然環境教育の事例調査結果について報告されました。研修システムを構築するにあたり、起業を考えている人や新規就業者のための資料の作成や、将来を担う子どもたち漁業等の水産業に興味を持ってもらえるような自然環境教育が重要であることが述べられました。

